

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月
学校法人 東京内野学園
東京ゆりかご幼稚園

1. 本園の教育目標

- (1) 集団の中で自他を尊重し、大ぜいの人となかよく楽しく生活できる社会性を育てる。
- (2) ことにあたり、意欲的に行動できるこどもを育成する。
- (3) 基本的な生活習慣態度をしっかりと身につける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領、幼稚園施設整備指針を踏まえ、日常の生活や遊び、活動を通して「主体的、対話的で深い学び」への理解の深まりと実践の定着を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	室内環境の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none">・園児が思い思いの遊びに夢中になれるよう環境構成を意識してきたが、1人1人の思いをより丁寧に汲み取り、遊びや活動に繋げていく必要がある。一方で、園庭での遊びも充実させるには、室内遊びとのバランスが重要になることから、園庭遊びと室内遊びの連動性や繋がりをより意識していくことで、保育全体がより流動的になると思われる。例えば木、葉、実、土、石などの素材や生き物などがより身近な室内での遊びに活かされることなどは、本園の豊かな園庭環境をより有効活用し、遊びや活動の充実に繋がることを期待される。・園庭「森の広場」に棲む野生のムササビ観察用カメラの映像を、保育室のモニターでリアルタイムに確認し、ムササビの生態を観察できるよう、森の広場と保育室約100mをつなぐWi-Fiを設置した。これにより園児が野生動物に一層関心を深め、科学的思考の向上を図ることができた。・園児が興味を示す様々な事象について、海外にも目を向け、興味を広げるため、ネットワークと保育室内モニターを使用し「キッツアース」システムを使用。現地の専門家とオンラインでつなぎ、映像で実物や事象を紹介してもらい、質疑応答や情報共有を行った。ユネスコスクールである本園が大切にしている「地球市民としての視点」に立ち新たな価値観を養うことができた。一方で、園児がシステムの趣旨を理解し、慣れることに多少の時間を要するため、導入をより丁寧に行っていくことが必要である。

2	幼小接続の重要性を踏まえ、連携小学校と「架け橋プログラム」を推進する。	A	令和4年度に実施した「架け橋プログラム」の各研修を踏まえ、連携小学校である七国小学校との連携を深めることができた。例年の年長児学校訪問や、接続時の情報交換に加え、今年度は、校長、研究主任、1年担任の先生方にお越しいただき、小学校におけるスタートカリキュラムや「探求的な学び」の取り組み状況や研究成果について情報を共有していただいた。本園の年長児アプローチカリキュラムとの接続性を確認することができ、有意義な研修の場となった。また、意見交換では幼児・児童の育ちへの眼差しにフォーカスし、現状把握と今後の課題について共通認識を持つことができた。
3	低年齢向け環境の充実	A	満3歳児に加え、2歳児の保育や1歳児親子クラスが開設されるに伴い、低年齢の遊具をはじめとした環境の充実を図ることができた。室内では生活に必要な棚や机、椅子の充実、遊びに必要な教具・遊具の新設を行い、園庭では保育室前に隣接の森の間伐材等を使用した「Yurikago Garden」を創作し、低年齢児が滞留して遊べる環境を作ることができた。1年を通して主体的に楽しく遊ぶ様子が見られた。
4	当園の自然豊かな環境での遊びや活動の成果に関する評価、検証を行い、今後の「主体的、対話的で深い学び」のさらなる充実への足がかりとする。	A	日常の遊びや活動を通して、豊かな森や、そこに棲息する野生動物への興味・関心を深め、疑問や課題に対しては「自然体験プログラム」として専門家4名の指導を仰ぎ、さらなる好奇心、探究心の向上を図る事ができた。これらを評価するため、主幹教諭によるエピソード記録の分析、保護者による質問紙調査を行い、幼稚園教育要領で求められている「持続可能な社会の創り手」としての教育的効果と今後の課題について浮き彫りにすることが出来た。今後も日常の遊びとプログラムとのバランスを再検討し、より充実した活動と教育的効果が期待できるよう取り組んでいく。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、「主体的、対話的で深い学び」への理解が深まり、実践が根付きつつあると思われる。一方、1で言及したような課題も明確になった。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園庭と室内との相互性・連動性	園児の主体性や選択性を尊重しながら、園庭と室内とで遊びや活動が分断されることなく、よりシームレスな関係が維持できるよう、相互性と流動性を意識した環境構成と援助を目指す。 具体的には、自然物の室内への持ち込みやコーナーの設定、図鑑等の持ち出し、園庭での拠点の整備などを検討する。

2	幼小の接続と地域との連携	幼小接続の重要性を踏まえ、これまで行ってきた連携小学校との「架け橋プログラム」を一層推進する。また、地域の保・幼・小・中・高・大・企業・地域団体等で構成される「七国学園都市構想」に積極的に参画する中で、各団体との連携を深め、子ども達の健やかな成長を見守り促す。
3	低年齢向け環境の充実	満3歳児、2歳児、1歳児親子クラスなど、低年齢の遊び環境の充実や、低年齢児向けの「通年園庭開放」をより利用しやすくなるよう、拠点の整備を図る。 具体的には移動式テントを数カ所設け、絵本を読んだり、親子で過ごすことができる空間を創造する。また、低年齢児向けの遊び空間や親子で休憩ができるベンチなどの充実を図る。
4	八王子市すくてく事業への参画	八王子市が取り組む未就園児誰でも通園制度「すくてく事業」に積極的に参画し、これまで行ってきた1・2歳未就園児クラスの充実を図る。未就園児が安心して通うことが出来るよう、体制の整備と環境の充実を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価（大学准教授、保護者、地域の方などで構成）

・1については自己評価がBとあるが、保育室の環境設定も十分であり、子ども達が興味を持ったり疑問に思ったりしたことも、実際に園庭に行けば、調べたり実体験ができるという他園にない良い環境がある。実際に見たものが調べたものと合致することで、子どもにも入りやすく、調べることの面白さ、発見することの楽しさを得ていると感じる。そのため、あえて室内環境の設定を「ままごと」のように考える必要はないと考える。

野生動物の観察がより身近にできる試みは、東京ゆりかご幼稚園ならではの取り組みだと思う。これからも、子ども達が好奇心をより深めていくことができるよう、こうした取り組みを継続していただきたい。

キットアースの取り組みは、海外への興味を広げるきっかけとして素晴らしいと思う。課題としてあげている「慣れる事に要する時間」については、まず対象学年の園児全員がこれを一度経験した上で、興味を示す事柄について希望する園児を対象に活動を行っていくとよいのではと感じる。

・幼小接続の架け橋プログラムによって、公立小学校も幼稚園との連携がしやすくなった。小学校は教科指導のため調整しにくい面もあるが、主体的な学びや探求型の学習が多くなり、授業形態も工夫されてきている。小学校の先生が幼稚園を見学されていることはとても素晴らしいので、今後も幼児教育をよりご理解いただけるよう連携を深めて欲しい。

令和5年度 教育水準向上事業評価報告書

令和6年3月
学校法人 東京内野学園
東京ゆりかご幼稚園

1. 事業の趣旨・目的

当園の自然豊かな環境での遊びや生活の中で、興味をさらに広げ深める一助となるよう、園庭ネットワークの整備や海外とを繋ぐシステムの構築を図る。

2. 実施内容の報告（昨年度例）

	回数	実施内容
1	通年	昨年度の本事業で設置した園庭「森の広場」に棲む野生のムササビ観察用カメラの映像を、保育室のモニターでリアルタイムに確認し、ムササビの生態を観察できるよう、森の広場と保育室約100mをつなぐ高出力のWi-Fiを設置した。これにより園児が野生動物に一層関心を深め、科学的思考の向上を図ることができた。
2	年4回	園児が興味を示す様々な事象について、海外にも目を向け、興味を広げるため、「キッツアース」システムを使用。現地の専門家とオンラインでつなぎ、映像で実物や事象を紹介してもらい、質疑応答や情報共有を行った。ユネスコスクールである本園が大切にしている「地球市民としての視点」に立ち新たな価値観を養うことができた。一方で、園児がシステムの趣旨を理解し、慣れることに多少の時間を要するため、導入をより丁寧に行っていくことが必要である。

3. 学校関係者評価委員会の評価

1は幼稚園の豊かな自然環境の中で、生き物をより身近に感じることができる取り組みで、とても素晴らしいと思います。特に、野生動物の観察がより身近にできるなどは、東京ゆりかご幼稚園ならではの取り組みだと思います。これからも、子ども達が好奇心をより深めていくことができるよう、こうした取り組みを継続していただければと思います。

2は、海外への興味を広げるきっかけとして素晴らしいと思います。課題としてあげている「慣れる事に要する時間」については、まず対象学年の園児全員がこれを一度経験した上で、興味を示す事柄について希望する園児を対象に活動を行っていくとよいのではと感じました。